講　評

八幡浜市保内総合児童センター（仮称）
デザイン設計競技審査委員会

八幡浜市保内総合児童センター（仮称）は、現存する保内地区の３つの保育所を１つに統合すると同時に、これまで保内地区にはなかった児童センターを同一敷地内に設けるものです。今回のデザイン設計競技では、子どもたちの健やかな育ちの場として、また子育て支援の核となる施設として、保育所と児童センターそれぞれに適切な機能性・安全性はもちろんのこと、それに加え、子どもたちの育ちと子育て支援の場を象徴し、地域の人々に長く親しまれ愛される施設となるよう、八幡浜の歴史や文化、風土を理解したデザイン性も求められました。

このように総合的な観点からのデザイン設計が求められるなか、この度の「八幡浜市保内総合児童センター（仮称）デザイン設計競技」には、全国から１８４作品が提出されました。大変有難く思うとともに、オリジナリティあふれるご提案に審査員一同大変感心させられました。

最終審査（公開審査）に進んだ６作品はいずれも、子どもたちの健やかなる成長を軸に、保育士等の働きやすさやこれからの時代に求められる保育、地域の人々との関わりも考慮されており、甲乙つけ難い秀作揃いでした。プレゼンテーションにおいては、書面では読み取れない細部にまで熟考されたご提案内容を披露いただきました。

審査の結果、最優秀賞に選定された作品をもとに今後詳細について議論検討を重ね、将来の八幡浜市を担う子どもたちの成長の一助となるよう整備を進めてまいります。皆さまには、今後も八幡浜市の子育てについて関心をもって見守っていただきますと幸甚です。

以下は、最終審査に進まれた作品の講評です。

【登録番号４１６／最優秀賞】

本作品は、子育て中である提案者自身の体験や保育現場の多数の保育者に意見聴取をした結果を基に子どもの育ちや子育てに対する思いを設計者として具体化した提案であり、八幡浜らしさも積極的に取り入れた親しみやすいデザイン設計でした。

保育所の２歳～５歳の各年齢保育室は、保育所の一日の生活の流れに沿って柔軟な使い方が可能な「クラス室」と「活動室」から構成されています。また、

保育所棟中央に異年齢交流空間として天井の高い「ランチ創作室」を中庭と一体的に設けることで、子どもたちの生活空間を魅力的に計画しています。食育にも配慮されており、遊戯室には調理室を見通すことのできるガラス窓が設置されています。

児童センターは、「事務スペース」をエントランスラウンジにオープンカウンターとして設けることで適度な見守りを可能としており、子どもたちが安心して利用できる居心地のよい施設となっています。さらに、保育所と児童センターは、多様な世代交流が行われることが期待される「交流広場」でつながれています。

施設全体は、木造在来工法の燃えしろ設計による準耐火建築物とされており、木材をふんだんに使った、人にやさしく、地域環境・経済にも配慮した計画となっています。

また、八幡浜の原風景の一つ「みかんの段畑」をモチーフにした段々の形の屋根を創り、八幡浜らしさを表現したデザインとなっています。

本作品は他には無い創意工夫や新しいアイデアを含み、デザイン性、安全性、機能性にも優れた提案であり、高く評価されました。

【登録番号４／優秀賞】

本作品は、これまで多くの教育・保育施設の設計を行ってきた実績を基に子どもたちの安全を第一に考えた計画であり、デザインにおける地域性や経済性など愛媛・八幡浜の状況もよく検討された提案でした。

市道側に駐車場と給食室のサービス部門を配置することで車と人との動線交差を極力低減し、門扉には電気錠が設置されています。また職員室から敷地内の多くを見渡せる配置となっているなど、利用者の安全を守る設計になっています。保育所１階に配置された低年齢児の保育室前には年齢を考慮した専用園庭が設けられており、低年齢児が安心して遊ぶことができます。児童センター棟は、日土小学校のように深い軒とハイサイドライトにより光と風を利用するとともに、木材の温かさを感じる心地よい空間となっています。

保育室と遊戯室との関係や食育を考慮した調理室の配置等について検討を深められるとさらに良い提案になったと思われます。

【登録番号５５０／優秀賞】

本作品は、魅力的な園庭の在り方から施設全体の計画を行ったものであり、他の作品とは異なった視点からのユニークな提案でした。高低差のある園庭と一体的に計画された保育所棟は、保育室がひな壇のように階段状に配置されています。保育室と保育室の間にある階段による高低差を緩やかな区切りと捉え

て年齢別保育室として利用することはもちろん、ひな段状の保育室のいくつかや全体を一体空間と捉えて保育することも可能なオープンでフレキシブルな保育空間の提案です。遊戯室から園庭につながるトンネルや様々な樹種が植えられた起伏のある丘の利用や見守りのあり方等を含め、保育する側の力量を試されるような斬新な提案となっています。

保育室がデッキを介して園庭とつながっており、子どもたちがいつも自然を感じながら過ごすことができることや、保育所と児童センターが道路側に設けられた交流テラスによってつながり、多様な世代交流が期待できることも高く評価されました。

０歳児保育室がひな段状の保育所棟の最上部に配置されていることや、丘に設けられた水の流れの排水処理、児童センター棟と体育館とのつながり等についての検討・工夫がなされればさらに良い提案になったと思われます。

【登録番号９７】

本作品は、外観においては、大きな斜め柱で構成される「さんかくユニット」のダイナミックなデザインを特徴とし、屋内においては、構造にとらわれない自由度の高い部屋配置が可能であるとともに、子どもたちの遊びを誘発する空間を提案しています。子どもたちが自ら考えたり発見したりしながら過ごせる楽しい工夫がある居心地のよい屋内空間、周囲に緑を配し木陰を作ることで少し守られた感じに計画されている園庭などが評価されました。

しかしながら、保護者と離れて保育所で長時間を過ごす低年齢児や一時保育の子どもたちにとって、もっともさみしさと不安を感じる登園時に大きな斜め柱のダイナミックな連続体を目にすることは、一日の始まりにおける安心と安定の妨げになりはしないかということが懸念されました。

【登録番号１３５】

本作品は、地域に開かれた明るく見通しの良い施設、様々な交流を生み出すことを可能とする施設の提案です。保育所と児童センターの共通のエントランス空間である大きな軒下空間からは施設内の様子をうかがい知ることができ、道路側のポケットパークは地域の人々が集い交流が生まれる場であるなど、子ども関連の施設とまちが緩やかにつながる提案となっています。さまざまな膨らみを持つ壁により変化に富んだ空間が生み出される保育所の保育室は、人数に適したいくつかの小空間としても、大きなワンルームとしても、利用可能です。外の景色に開かれた明るいランチホールは、調理室の様子が見えるだけでなく、子ども用キッチンも設けられているなど積極的な食育実践を提案しており、高く評価されました。

他方、調理室から保育室への給食の配膳や保育室からトイレへの移動には外廊下か他の保育室の中を通る必要があるため冬期や風雨時の対策、他室の保育への配慮が必要なことや、地域に開かれた施設とすることと子どもたちを外部の視線から守ることを両立させるためのほどよい遮りの在り方等について、十分な検討と工夫が必要と指摘されました。この課題を踏まえて案を練り直すことができれば、より洗練された使い心地のよい提案になったと考えます。

【登録番号４９８】

本作品は、保育所と児童センターを小さな五つの棟（「子どもの家」）の連なりで構成することで子どもたち自身が知恵を絞り楽しさを見出すように計画されるとともに、棟と棟の間から外部に開かれることで地域と交流をもつことのできる環境を生み出す提案となっています。敷地四辺に配置された五つの棟は、中庭周りに設けられた回廊で繋がれることで回遊性を持つとともに多様な半外部空間を有しています。分棟形式を生かして防火規制がかからない計画とし、通常の木造建物とすることで木材利用促進とコスト削減が図れることも評価されました。

しかし、「乳児の家」と「幼児の家」が園庭を挟んで遠く配置されているため０～２歳児と３～５歳児の日常的で自然な関わりが生まれにくい点、遊戯室が「幼児の家」から遠く不便である点、トイレが保育室内からは利用できず見守りも困難な配置となっている点、プールやビオトープなどの水場が０歳児、１歳児の保育室に近く危険である点、駐車場から保育所玄関までの雨天時の対策等が課題として指摘されました。この課題を踏まえて案を練り直すことができれば、より洗練された使い心地のよい提案になったと考えます。